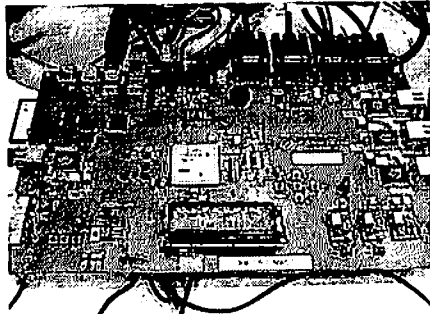


マルチコア/OSに対応

ウェルビーン



ウェルビーンが開発した評価ボード

ウェルビーンが開発した評価ボードとして、サイリ

今回、マルチコアCPUとマルチOSを同時に利用可能とする評価システムとして、サイリ

「WBVRT」は、RTOSに組込んだ仮想リアルタイムOS (RTマシモン) 上で、RTOSのタスクの一つとしてLinuxが動作する仕組みとなっている。

今回は、同社のソフトウェアプロセッサ「MicroBlaze」を2個搭載したデュアルコア環境で、複数OS環境を考慮してボードにはギガビットイーサや通信回路(U

今回の開発したフラットフォームは、MITRONをホストOSとし、TOSをホストOSとして、Linuxが動作する仕組みとなっている。

今回の開発したフラットフォームは、MITRONをホストOSとし、TOSをホストOSとして、Linuxが動作する仕組みとなっている。

ウェルビーンは、マルチOS環境を実現する仮想マシンモニター「WBVRT」を開発した。さらにWBVRTを搭載してマルチコア・マルチOS開発環境を実現する評価システムとして、サイリックスのソフトウェアプロセッサ「MicroBlaze」を実装したマルチコア環境で、MITRONとLinuxを同時に動かせるFPGA評価ボードを開発した。これにより、現行のシングルコアシステムから今後普及が見込まれるマルチコア環境へと移行する際に、柔軟な構成変更や性能面でのスケールビリティの高い評価が可能になるとしている。

今回の開発したフラットフォームは、MITRONをホストOSとし、TOSをホストOSとして、Linuxが動作する仕組みとなっている。

今回の開発したフラットフォームは、MITRONをホストOSとし、TOSをホストOSとして、Linuxが動作する仕組みとなっている。

評価ボードを開発 仮想マシン搭載で実現

組込みソフト・システム関連

「S」も利用できる。

これにより、様々なOSの構成による柔軟性の高い評価が可能となる。

さらに、Linuxを拡張する際にデバイスドライバ側の処理をRTOS側に任せられる仕組みのため、GPLライセンスを気にせずにカーネルをリアルタイム拡張できるというメリットもある。

同社は、評価ボードを近目中に製品化する予定で、ほかにも設計支援や教育プログラムなどをアドバンスト・テクノロジ・リサーチ・ジャパンと共同で実施していくことにした。